

高校生を対象にした 原発比率に関する意識調査

■目次

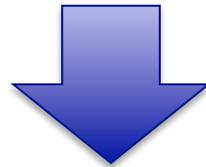
1. 研究背景
2. 研究目的
3. データ収集
4. 分析方法
5. 分析結果
6. 今後の展望

山梨大学生命環境学部
地域社会システム学科

内藤 雄介

1. 研究背景

2011年3月、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、日本のエネルギーを巡る状況は大きく変化した。特に、国民が発電について考える風潮が強まった。



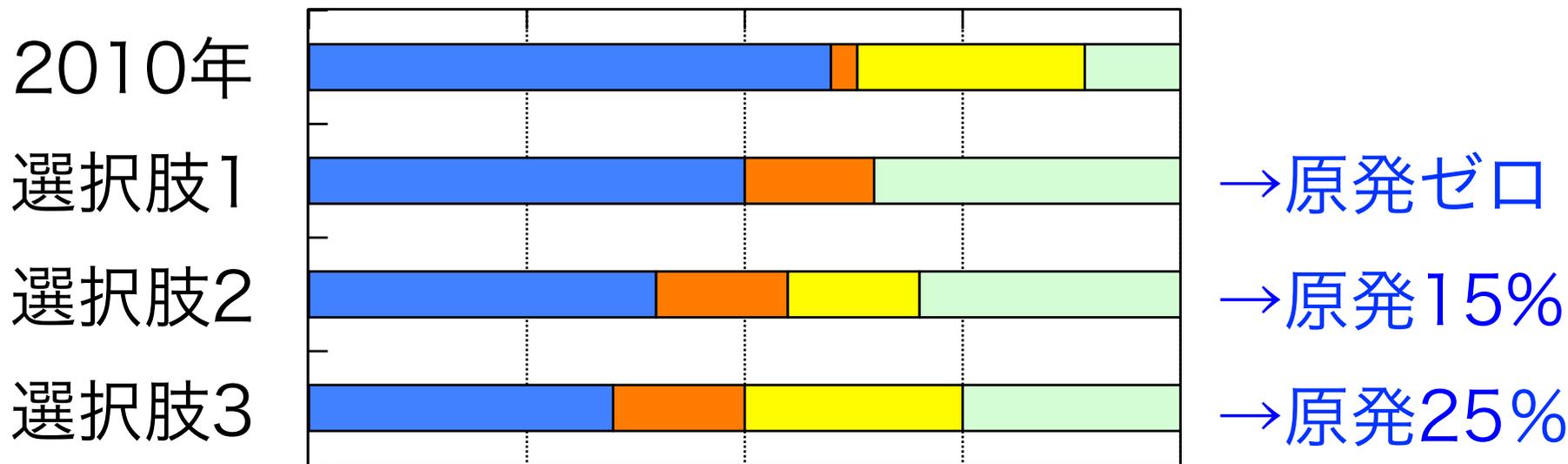
2012年8月、政府は革新的エネルギー・環境戦略の策定に向けて、**国民的議論**を実施した。

具体例：意見聴取会、マスメディアの意向調査
討論型世論調査、パブリックコメント

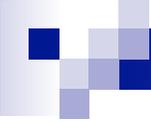
2030年の電源構成

■火力 ■コジェネ ■原子力 ■再生可能

0% 25% 50% 75% 100%



国民的議論はエネルギーについて考える良い機会



2. 研究目的

本研究は以下の2つを国民的議論の課題と考えた。

(1)若者(次世代層)の参加が全体的に少数

(2)膨大な意見(情報)の見える化が不足

これからの社会を担う次世代層が自らエネルギーを選択しエネルギーに関心を持つことは重要!!!

本研究は高校生を対象に原発比率の意識調査を実施し、テキストマイニングを用いて、回答傾向を見える化することを目的とする。

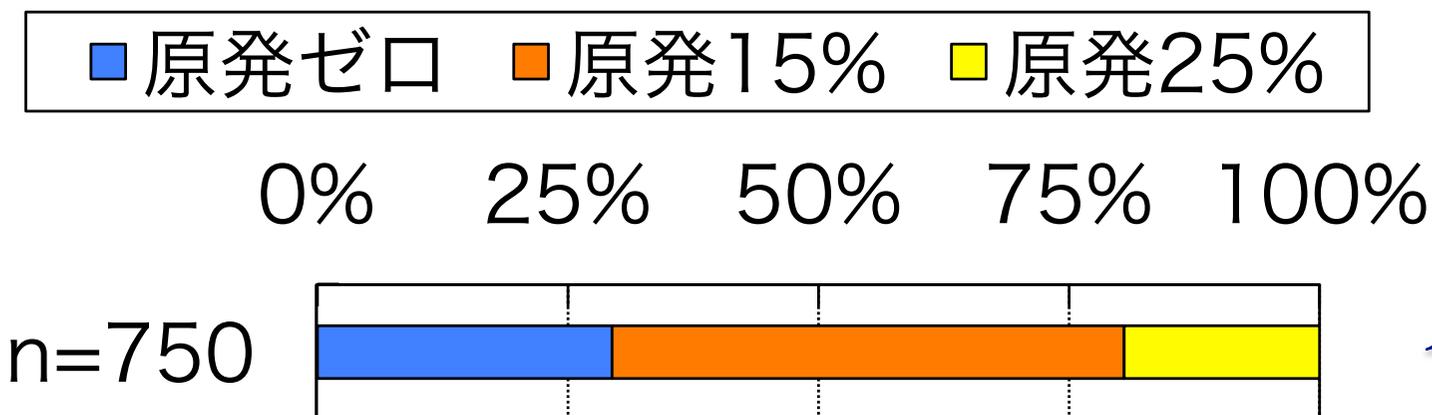
3. データ収集

対象：山梨県立N高等学校 全校生徒756名

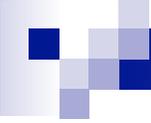
日時：2012年10月25日

方法：アンケート「未来社会とエネルギー」

内容：2030年の原発比率および選択した理由

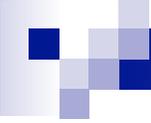


分析では
原発ゼロ
原発25%
に注目!!!



原発ゼロの自由記述例

- できるなら、ない方がいいと思う。いくら安全対策をしても人間だからミスはある。絶対安全なんてない。3.11のときのような事故を繰り返してはいけない。でも、原発反対と主張しているだけではだめだと思う。
- 原発は燃料の再利用ができてよいと思うが、燃料が輸入で廃棄物があるため、早い時期にやめて、火力発電など輸入しているものではなく、環境にやさしいものにした方が未来は明るい。事故を再び発生させない。廃棄物は環境に悪い。



原発25%の自由記述例

- 火力発電が増加して二酸化炭素が大量に放出されてしまうから。
- ゼロにすることは難しいことだと思うし、再生可能エネルギーが研究されるまでは危険でも原発を使うべき。
- 3.11で原発事故が起きてしまったけど、安全に使える方法を見つけて、火力発電と原発をバランス良くエネルギー源となった方がエネルギーをたくさん使えると思うから。

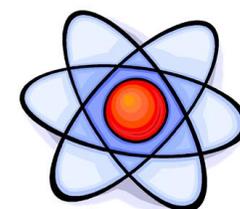
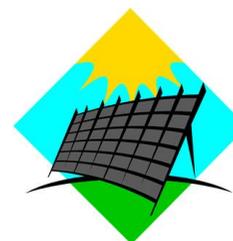
4. 分析方法

原発ゼロ(n=222)と原発25%(n=147)の自由記述を抽出した。以下のような語句は統一した。

原発←原子力発電、原子力 火力発電←火力
事故←原発事故 二酸化炭素←CO₂

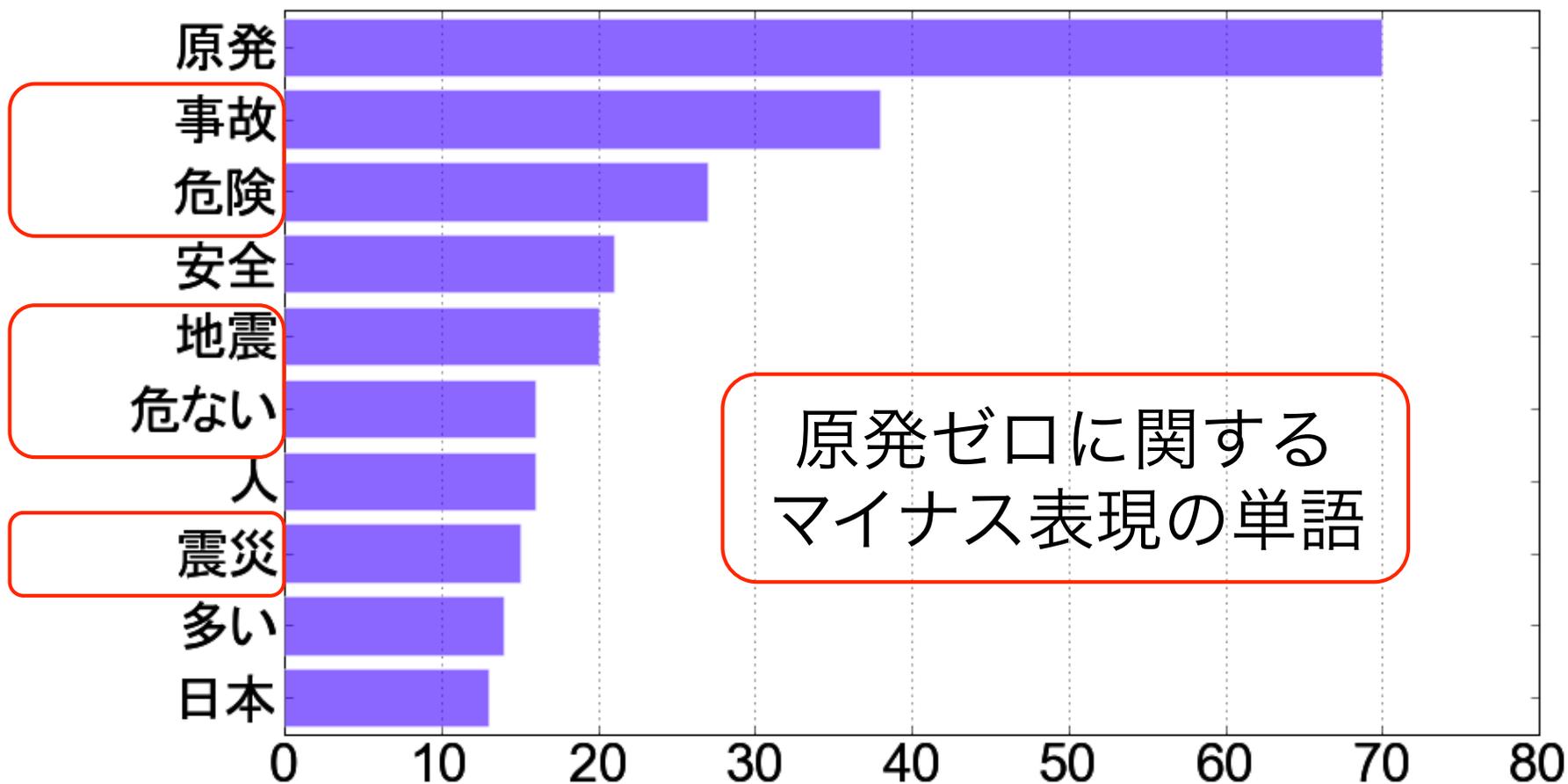
株式会社NTTデータ数理システムのText Mining Studioを活用して、以下の3つの分析を行った。

- ①単語頻度解析
- ②係り受け頻度解析
- ③ことばネットワーク

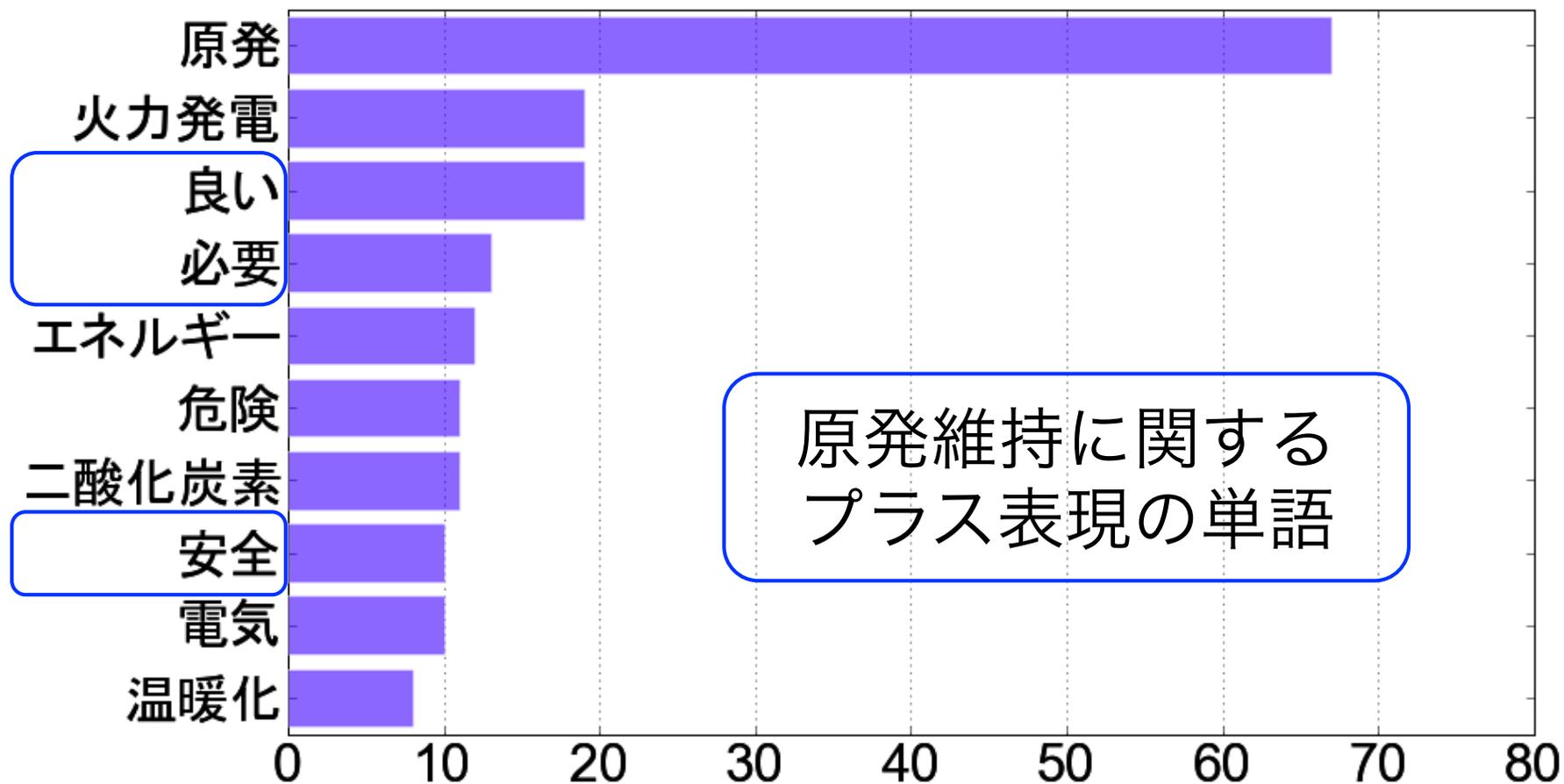


5. 分析結果

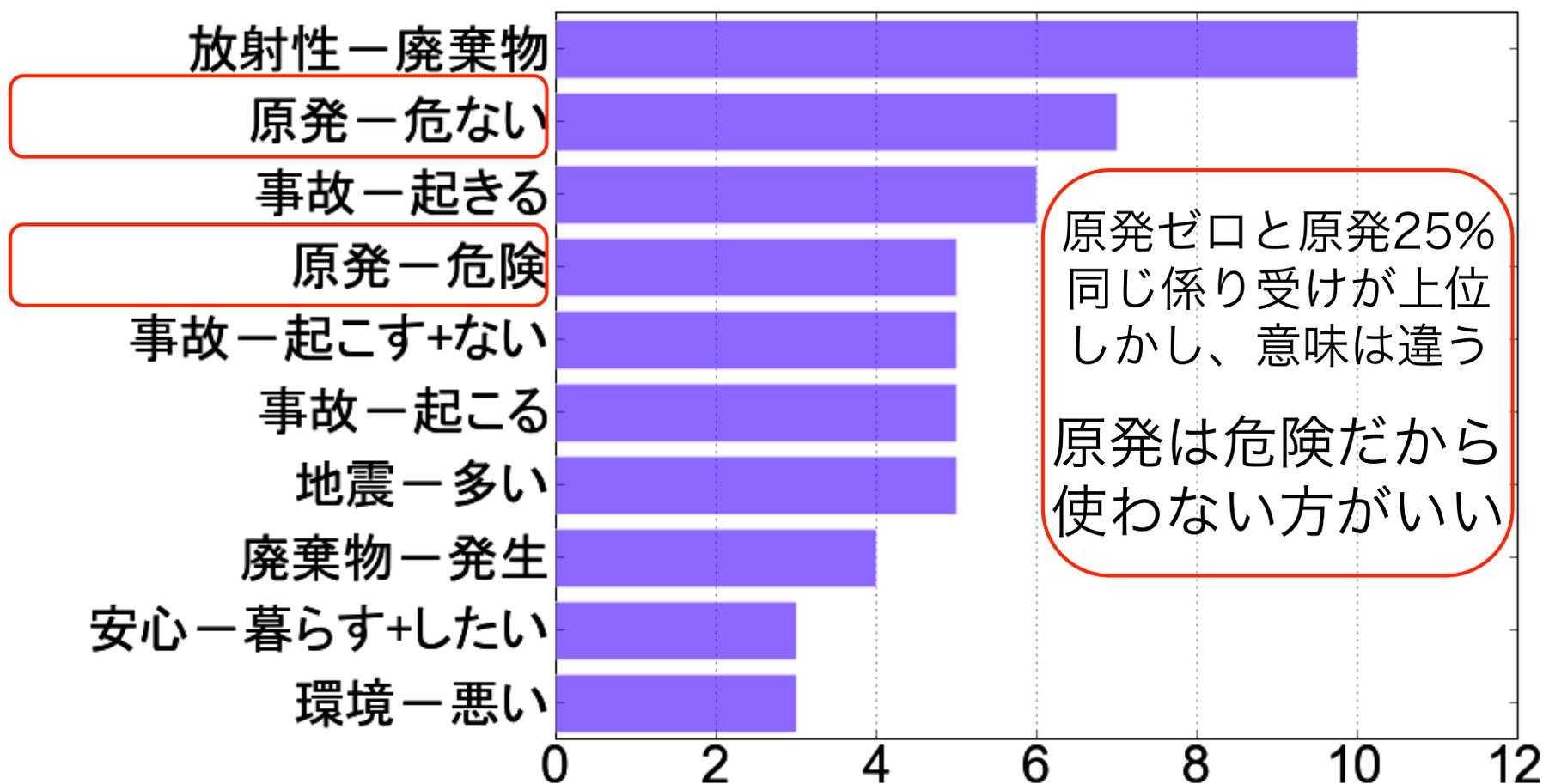
① 単語頻度解析 原発ゼロ



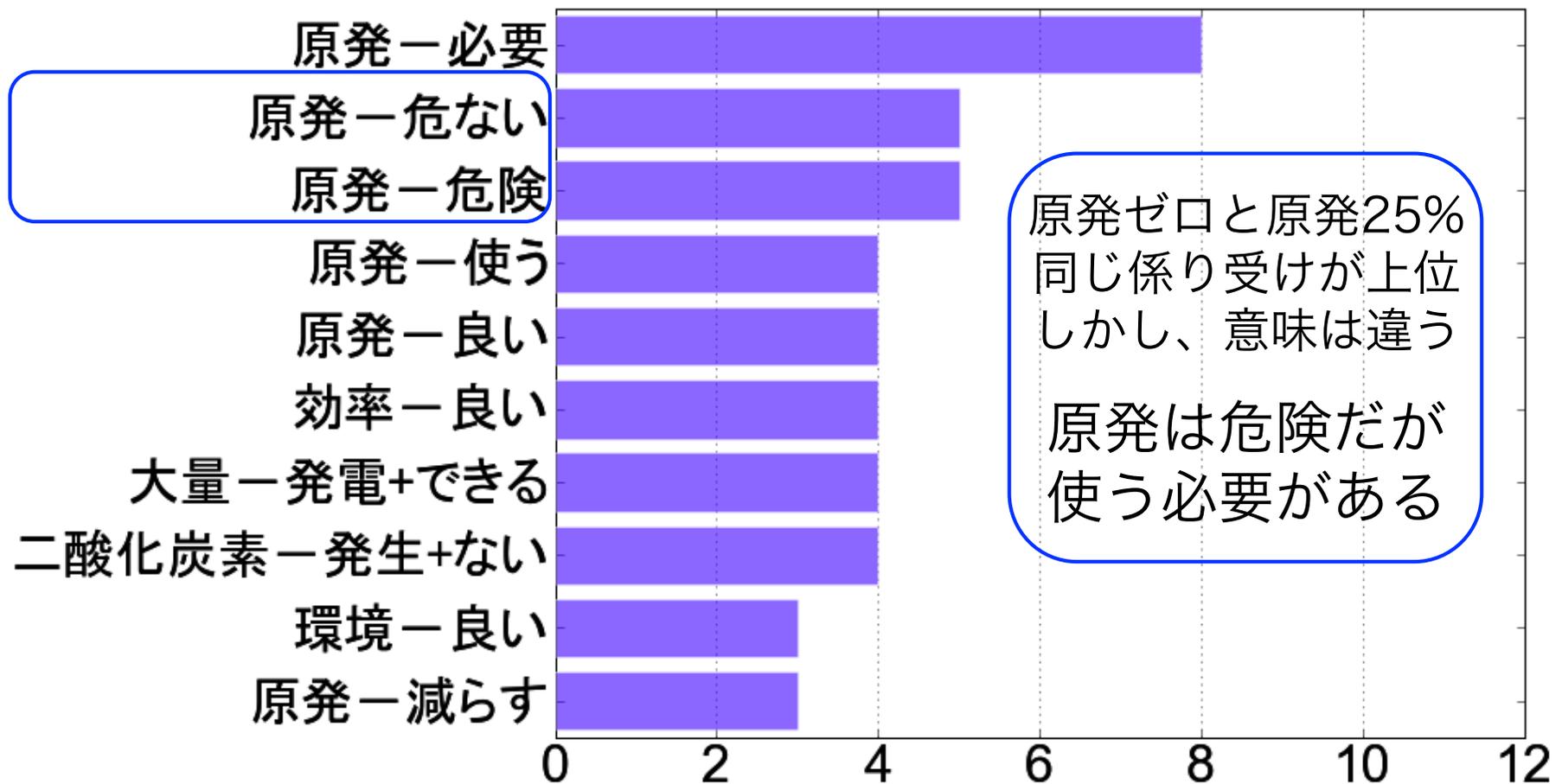
① 単語頻度解析 原発25%



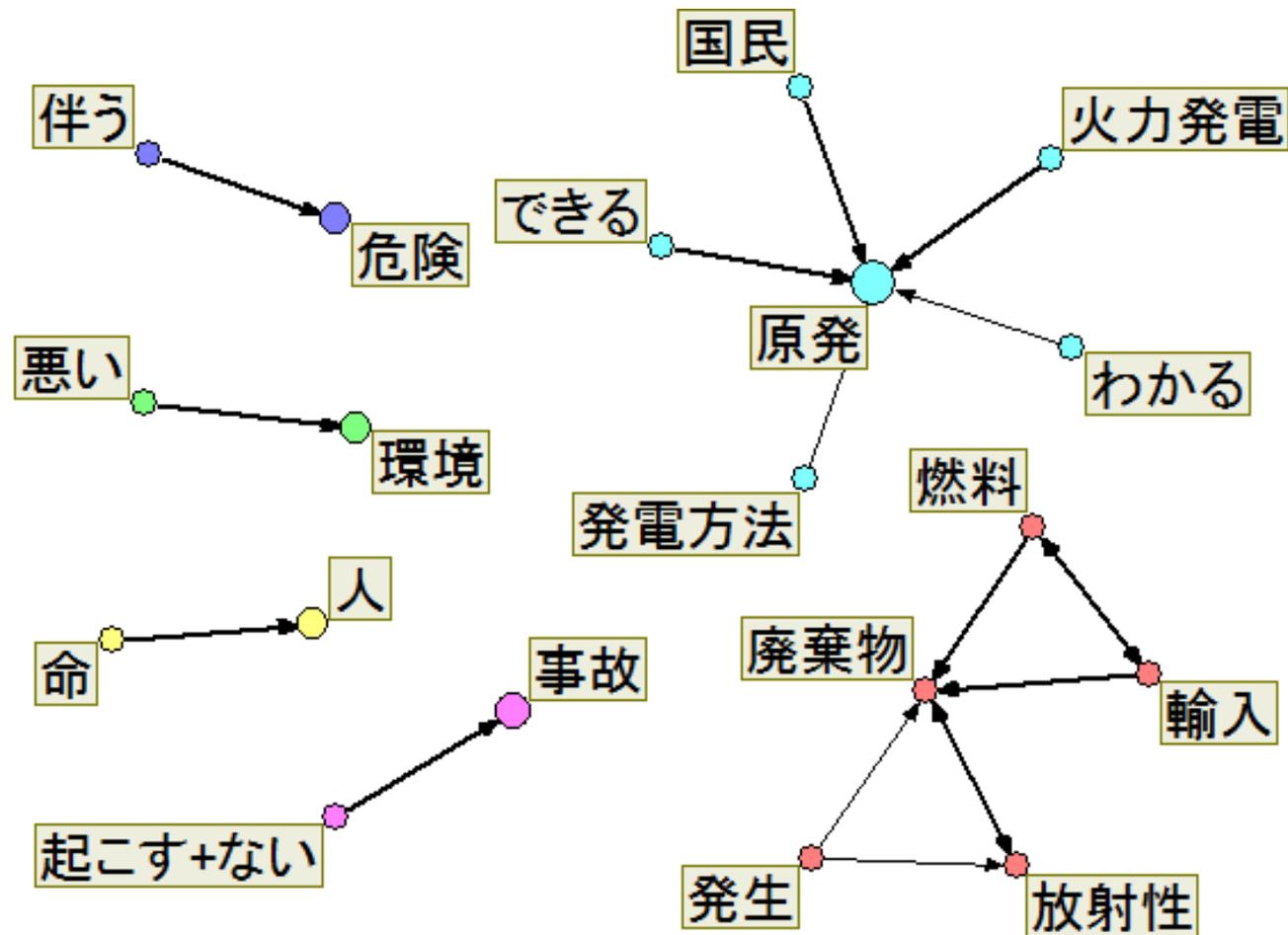
①係り受け頻度解析 原発ゼロ



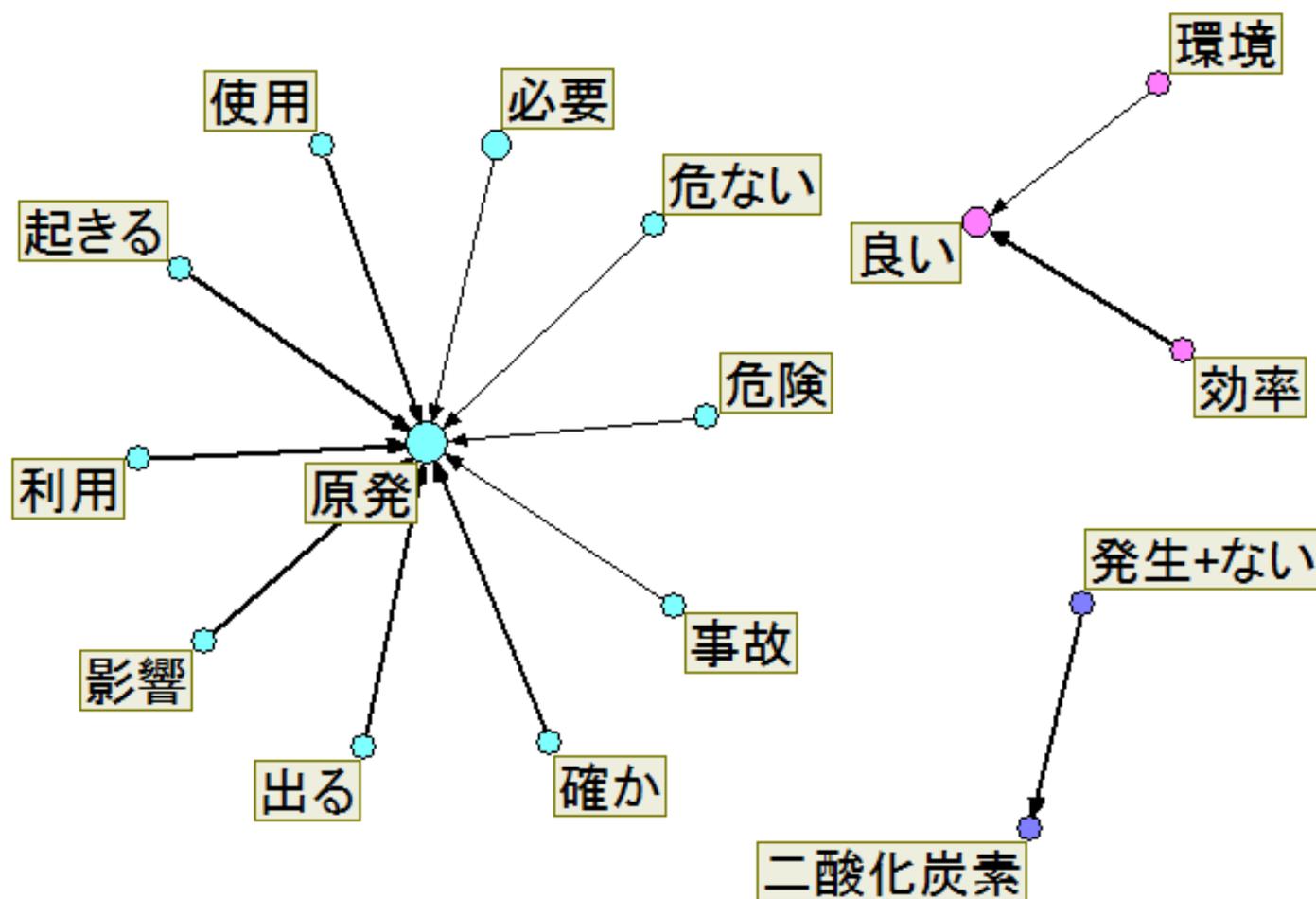
②係り受け頻度解析 原発25%

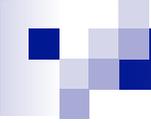


③ことばネットワーク 原発ゼロ



③ことばネットワーク 原発25%





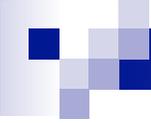
分析結果のまとめ

2030年に原発ゼロの主な理由

- ・ 震災のような事故を再び起こしてはいけない。
- ・ 原発は大きな危険が伴い環境にも悪い。
- ・ 燃料が輸入で放射性廃棄物が発生する。

2030年に原発25%の主な理由

- ・ 温暖化の原因である二酸化炭素を発生しない。
- ・ 発電効率がよく火力発電に比べて環境に良い。
- ・ 安全対策を取ったうえで原発は必要だと思う。



6. 今後の展望

本研究では、テキストマイニングを用いて、高校生の原発比率に関する回答傾向を明らかにした。

本研究は決して原発の是非を問うものではなく、次世代層が未来のエネルギーの使い方について、どのように考えているかを探究したものである。

今後は、政府のエネルギーミックスに対するパブリックコメントについて、テキストマイニングを適用し、本研究の結果との比較を予定している。



謝辞

データの収集にご協力いただいた高等学校の関係者各位に深く感謝します。

参考文献

- [1] 国家戦略室；革新的エネルギー・環境戦略会議,
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/npu/policy09/> (アクセス日：2015年9月1日)
- [2] 島崎 洋一；高校生を対象にしたエネルギー選択に関する出前講義, エネルギー・資源学会第29回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集, 135 (2013)